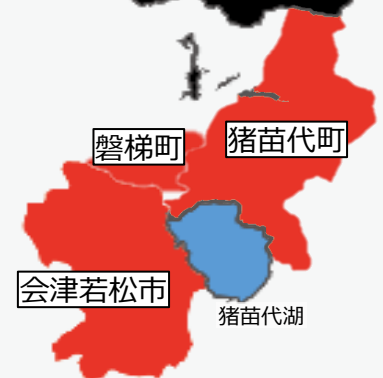


【磐梯町上西連集落から望む会津盆地】

未来の農村を担う 集落営農の確立

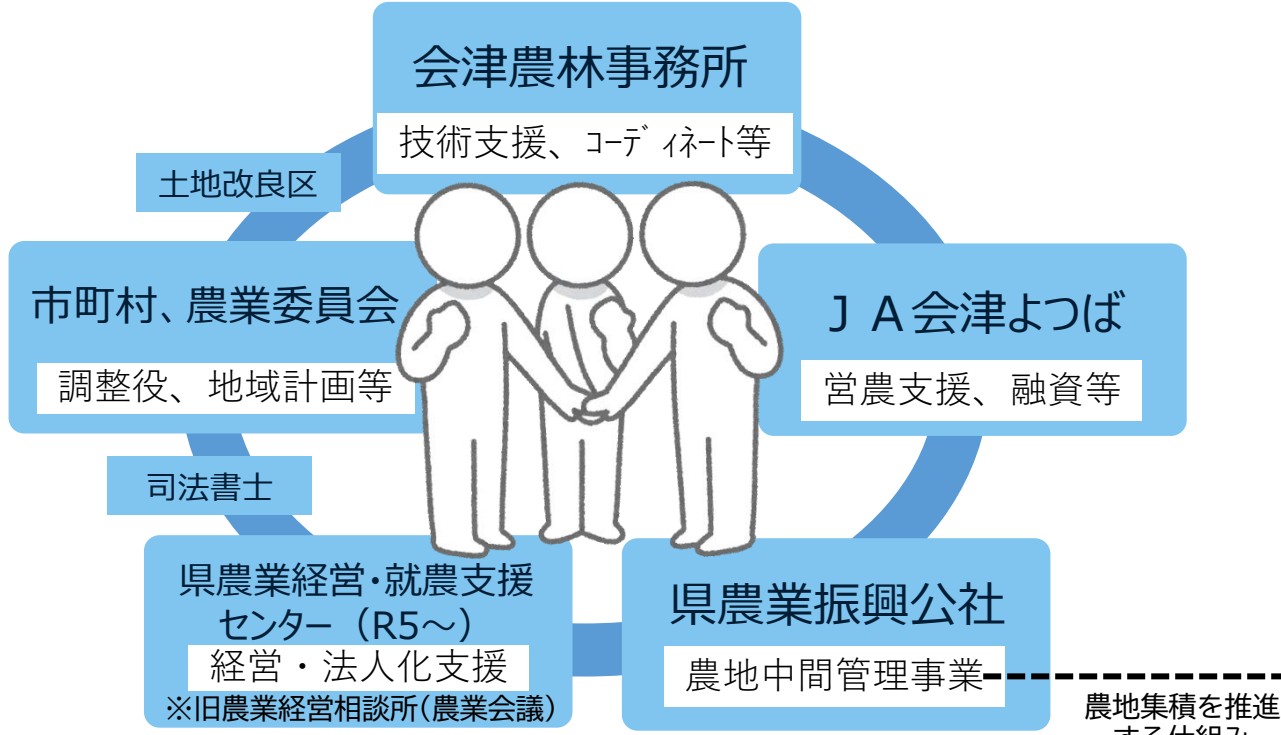
会津農林事務所農業振興普及部



集落営農推進に向けた関係機関の連携と関係法令など

【関係機関の支援体制】

(役割分担を明確にして連携)

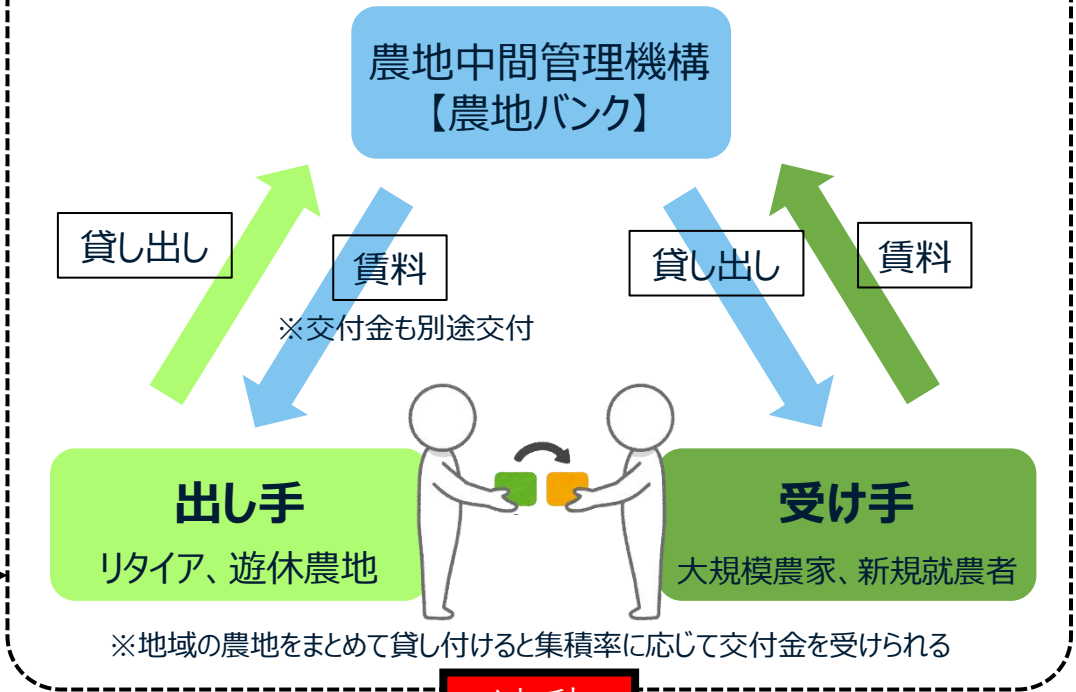


【関係法令】

- 農業経営基盤強化促進法 (認定農業者、地域計画)
- 農地法 (農地利用の最適化)
- 農地中間管理事業の推進に関する法律 (農地バンク)
- 農業委員会等に関する法律 (担い手への農地集積)
- 会社法 (株式会社)、農業協同組合法 (農事組合法人) 等

農地中間管理事業

農地中間管理事業の推進に関する法律 (機構法) に基づき、農地中間管理機構 (農地バンク) が所有者から農地を借り受け、集約化に配慮しながら借受希望者に転貸する事業(H26~)



連動

地域計画

◎ **目標地図** (担い手への集積計画) を作成

◎ 農地バンクを通じた農地の集約化の推進計画

※ 農業経営基盤強化促進法に基づく計画で、地域の農地を将来に引き継ぐために **令和7年3月までに策定が義務づけ**

現状

10年後目標

The diagram shows two maps of a region. The left map, labeled '現状' (Current), shows a fragmented pattern of yellow and green squares representing farmland. The right map, labeled '10年後目標' (10-year target), shows the same region with a more consolidated and organized pattern of colored squares, indicating the goal of land consolidation.

そもそも集落営農とは？

集落を単位として農業生産過程における一部又は全部についての共同化・統一化に関する合意の下に実施される**営農**をいう。

合理的に農作業や農業経営を進めていく手法

みんなでやっぺ！

やっぺ！



【Community-Based Group Farming】

集落営農の具体的な取組（一例）

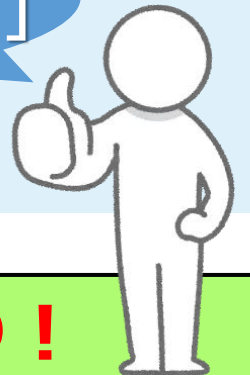
- 集落で農業用機械を共同所有し、集落ぐるみのまとまった営農計画等に基づいて、集落営農に参加する農家が共同で利用する。
- 集落で農業用機械を共同所有し、集落営農に参加する農家から基幹作業の委託を受けたオペレーター組織等が利用する。
- 集落の農地全体を一つの農場とみなし、集落内の営農を一括して管理・運営を行う。
- 集落の作付地の団地化等、集落内の土地利用調整を行う。 等

集落営農を行うメリットは？

- 農業機械の過剰投資を回避し、コストを下げられる
- 農地の面的な利用集積により作業効率が向上する
- 栽培技術の統一により、技術の個人差が解消され収量・品質も向上
- 構成員の知識や技能等に応じた役割分担が可能になる（多彩な人材を結集できる）
- 後継者が参加しやすい環境が整う（若手の受け皿）
- 農地や水路等の地域資源の保全につながる
- 農村コミュニティの維持・活性化につながる（生きがい農業も継続できる）

デメリットも…
意思決定に時間がかかる
問題発生時に時間と
コストがかかる

最大の目的は
「魅力と活力ある地域づくり！」



つまり集落営農は地域農業を守り発展させられる手法の一つ！

集落営農の優良事例

会津若松市 農事組合法人会津ひらつか農園

※令和6年度豊かなむらづくり顕彰事業優良表彰

【集落概要】

集落戸数 26戸
(内9戸が非農家)
農用地面積 48ha
(内水田面積 45ha)



【経過】

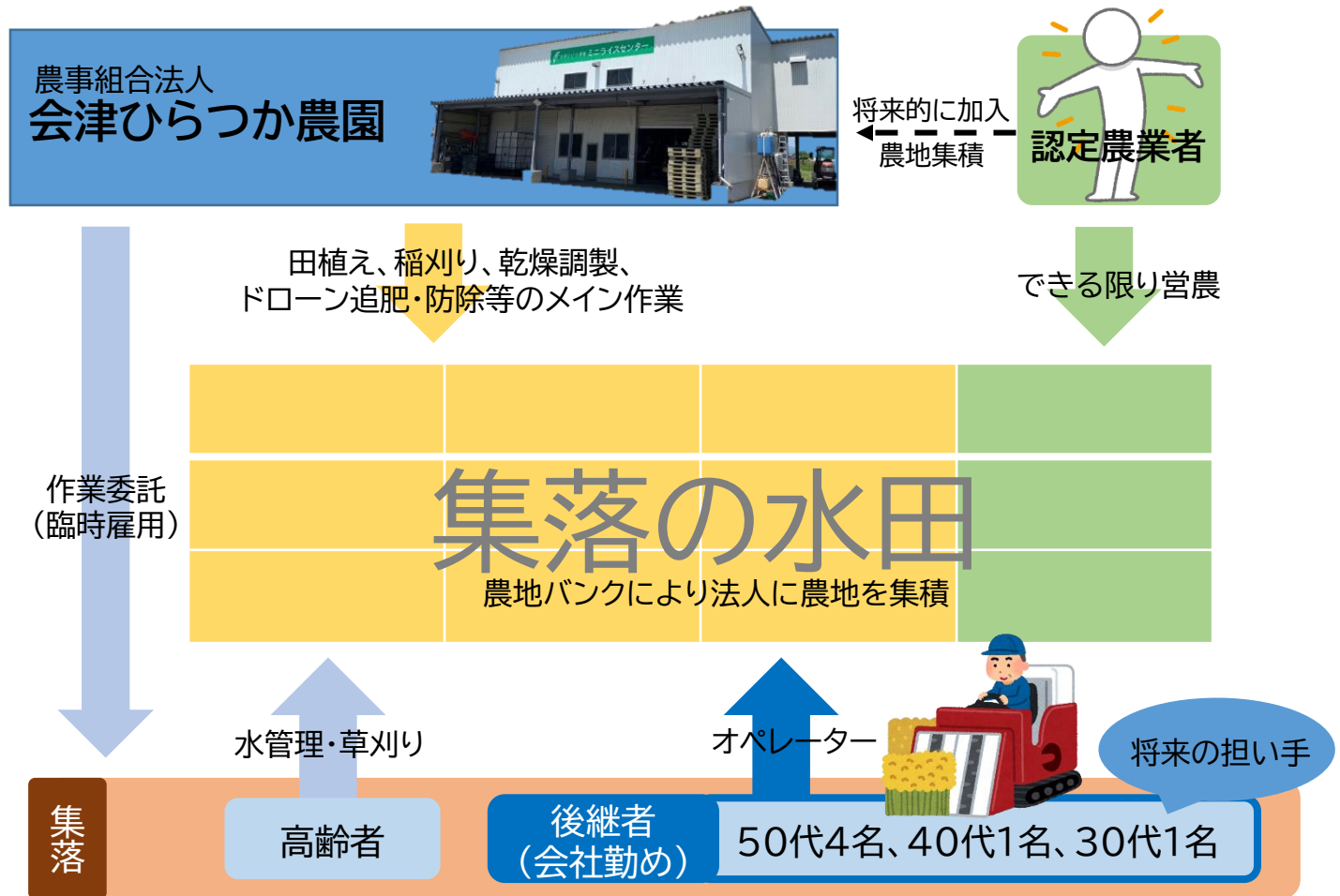
H23 集落12名で「平塚農業生産組合」設立
(2年間で組合員の機械を集約)
H27 8名で法人化(現在の姿)
※4名は個人経営を選択
H30～R1 ライスセンター整備、ドローン導入
R4 FGAP取得

【法人の経営概要】

経営面積 56ha ()
トラクター 5台
田植機 2台
コンバイン 3台
臨時雇用16名



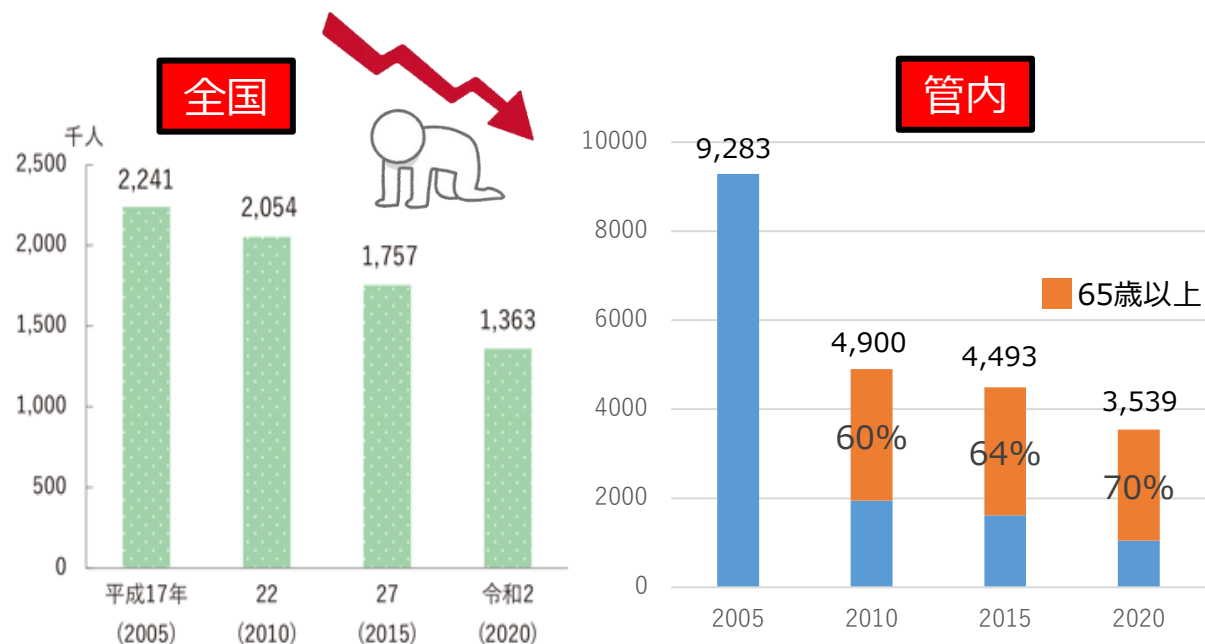
集落営農の仕組 (法人だけでなく、頑張れる担い手もいる、若者も高齢者も参加)



課題の背景

① 高齢化、担い手の減少(中山間は深刻)

【基幹的農業従事者の推移】



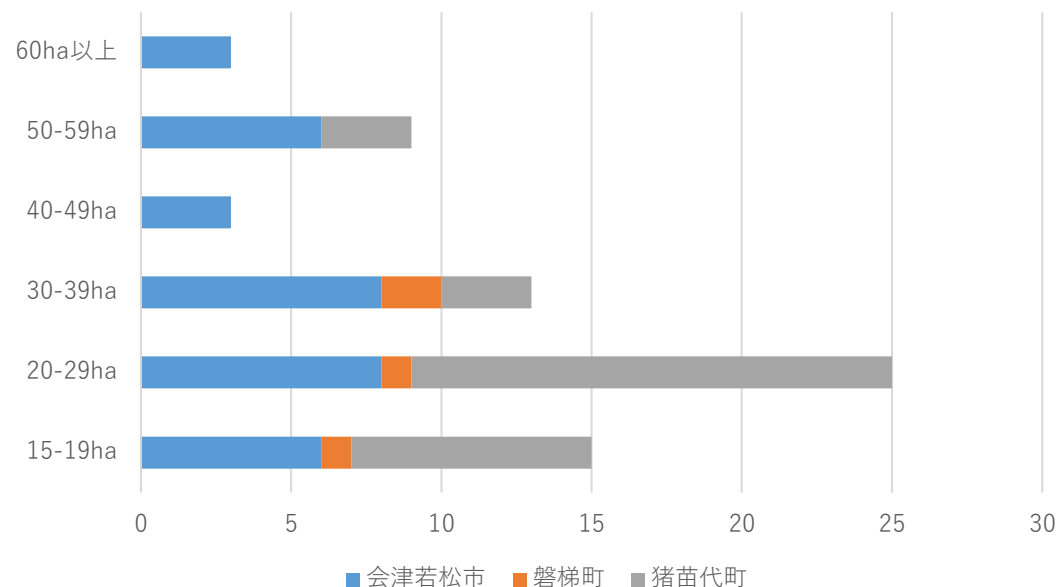
【農林水産省「農林業センサス」より】

集落ぐるみの取組

農地集積

② 地域を担う担い手の持続的发展

【大規模水稻経営体】



【会津農林事務所調査(令和5年)】

農業法人等の経営の高度化

省力技術導入、高収益作物導入など

(1)普及指導活動のねらい（取組計画）

- ① 重点集落を設置し、地域計画等の策定に向けた**集落の話し合いを支援**し、**担い手の明確化、農地集積等の合意形成**を図り、**集落に新しい仕組みを構築**する。

② **モデル集落**における**担い手組織の経営の高度化**を支援。



(2)活動の対象

- ① 地域計画作成対象集落（**重点集落**）

- 会津若松市 1 6 6 集落
 - 磐梯町 1 8 集落
 - 猪苗代町 9 1 集落

地域計画は
広域連携を含め
96地区

② **モデル集落**における担い手組織（農業法人含む）の経営の高度化支援

- 会津若松市 2 集落（経沢、高野）
 - 磐梯町 1 集落（源橋）

(3)成果測定事項

成果測定事項	基準（R2）	目標（R6）
地域計画作成数	—	9 6
新技術導入数	0	5
高収益作物導入数	0	3

1つ目の普及指導活動のポイント

関係機関と強力に連携した地域計画の策定支援

普及員の**コーディネート力**を発揮！

専門知識やノウハウ、事例・情報量、
そして燃えたぎる情熱で合意形成を応援！

STEP 1

人海戦術！

全集落への説明会

【連携機関（役割分担）】
市町、農業委員会、土地改良区、
県農業振興公社、JA



STEP 2

重点集落を
徹底支援！

重点集落の合意形成を支援

動きのある集落から話し合い等を支援し、
10年後の地域計画の策定を支援！
---周辺集落への横展開も実施---



アンケート

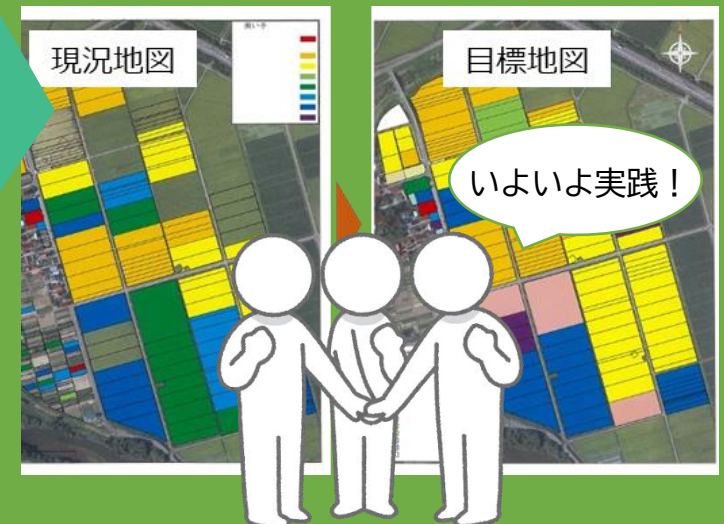
全戸の意向を確認し、
集落の状況を把握・分析

STEP 3

計画を全て
チェック！

地域計画の策定！

担い手の明確化
農地の集積計画を策定
地域の農地を守ることができる計画が完成！



重点集落における普及指導活動

磐梯町 ^{かみさいれん} 上西連集落

【集落概要】

集落戸数 37戸

⇒ 認定農業者3名、新規就農者2名

水田面積 53ha

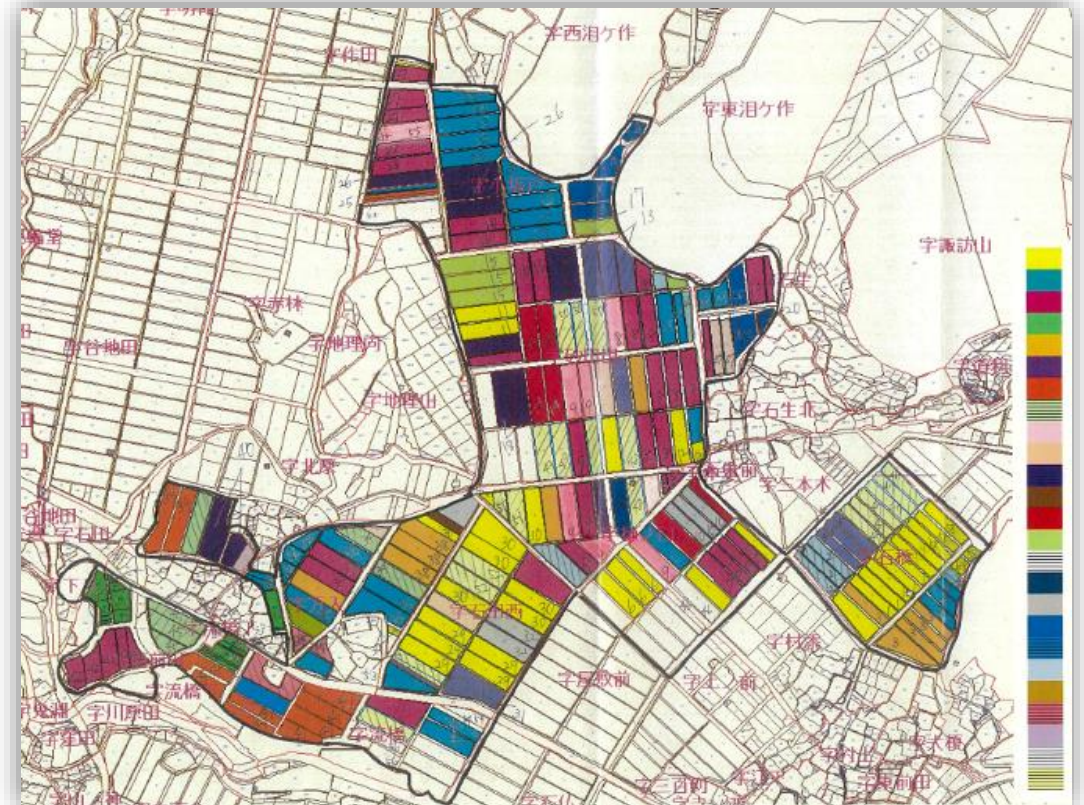
⇒ 耕作者の7割が60歳以上



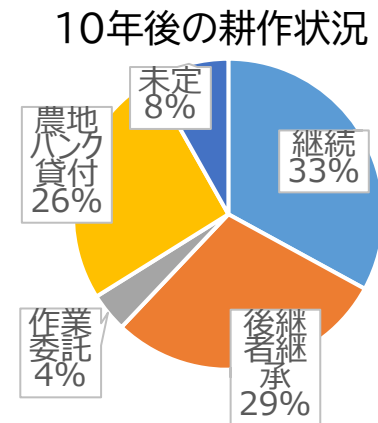
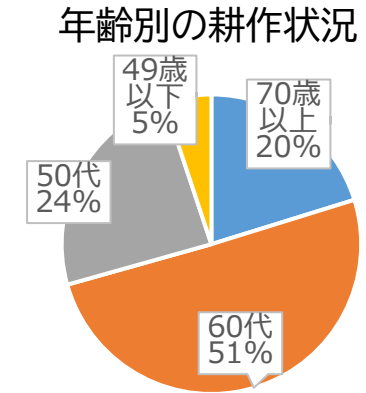
【集落の課題】

- 地域の担い手は7戸（ほとんどが土地持ち非農家）
- 担い手の農地が分散（効率的な営農に限界）

重点集落として
普及活動を開始！



(1) アンケート調査による集落の実態把握と将来像を描いた！



現在

現在上西連地区では、認定農業者の方を中心に、農地の耕作が行われている。

農地が担い手に集約されており、バランスが取れた状態

将来

5年後10年後には、中心となる農業者が高齢化し、営農が困難になってしまう。(持続的な農業ができない)

農地が返還され担い手と出し手のバランスが崩れた状態

地区の営農の中心となっている農業者がリタイアしてしまった場合、多くの農地が耕作されない状況になってしまう。

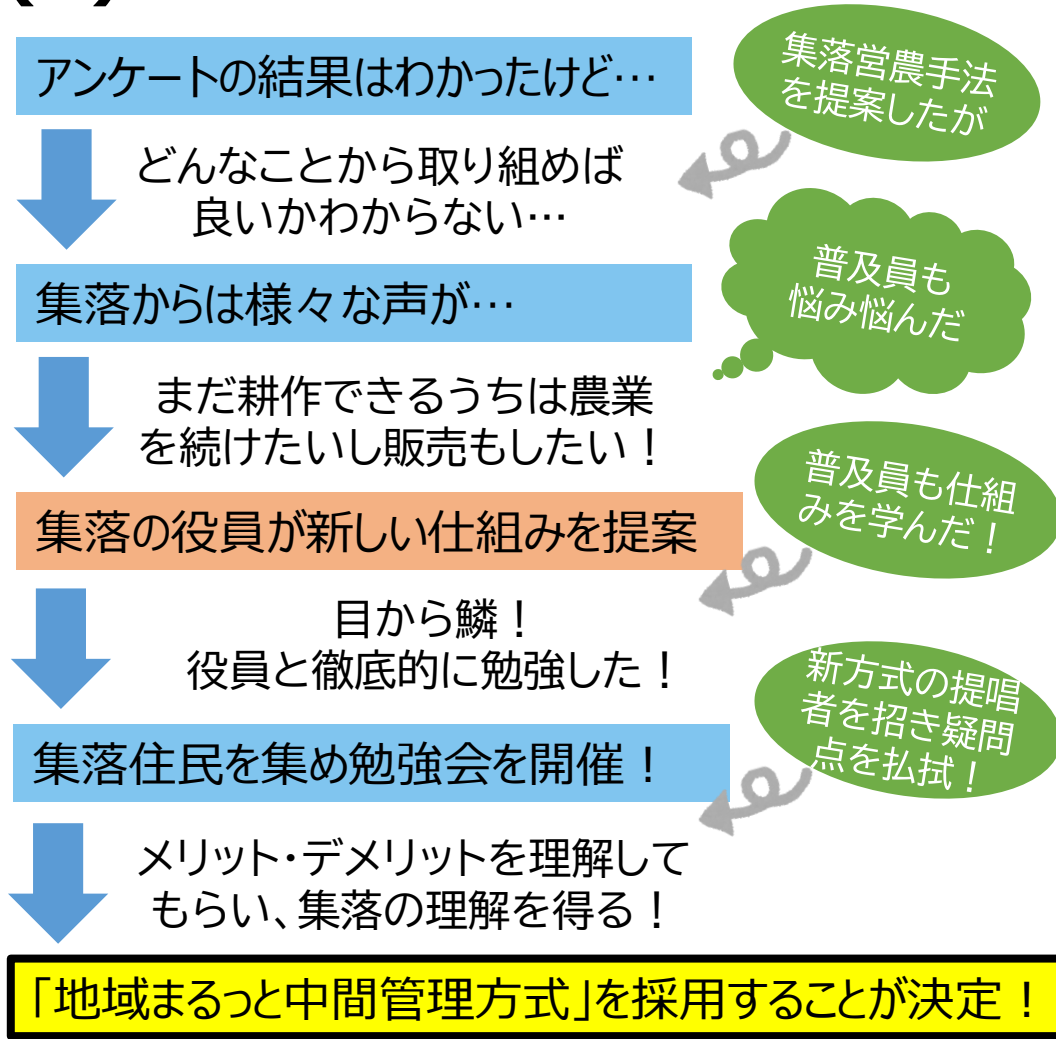


病気やケガ、高齢化により、耕作したくてもできない担い手



耕作してほしいが、誰に頼んでいいのかわからない出し手

(2) 話し合い等の支援



集落営農手法
を提案したが

普及員も
悩み悩んだ

普及員も仕組
みを学んだ!

新方式の提唱
者を招き疑問
点を払拭!

「地域まるっと中間管理方式」とは!?

(提唱者)魅力ある地域づくり研究所 可知祐一郎

守るべき農地をまるごと農地中間管理事業(農地バンク)
を活用して守る方式

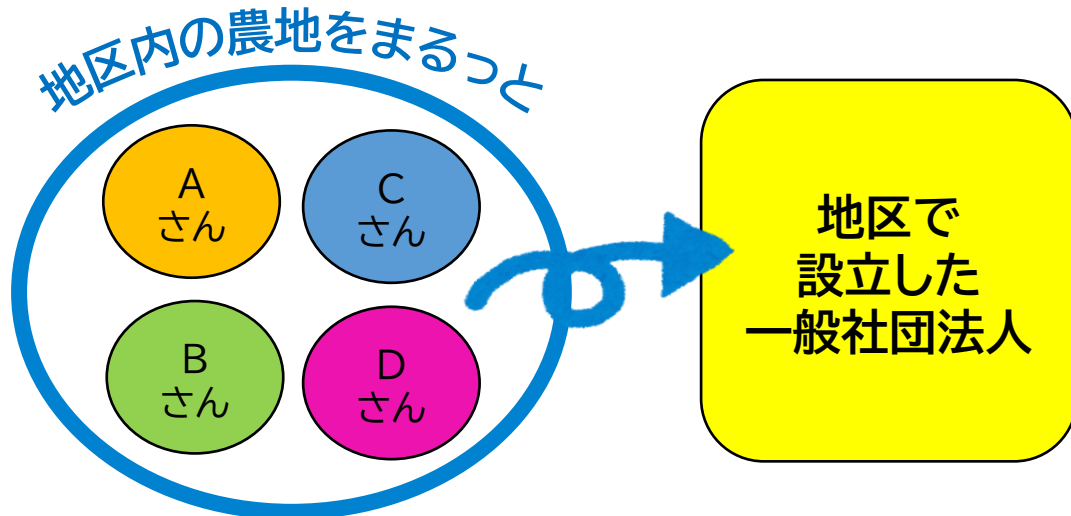
【進め方】

- 集落等を範囲として非営利型一般社団法人を設立し、
担い手・自作希望・出し手みんなが会員となる
- 地域のすべての農地を農地バンクを経由して一般社団
法人が丸ごと借受
- まだ耕作できる自作希望農家とは特定農作業受委託
契約を締結し、従来どおり耕作を続けてもらう
- 耕作できなくなったら、一般社団法人が直接経営する

一般社団法人の設立が合意!

一般社団法人を設立し「地域まるっと中間管理方式」を導入 県内初

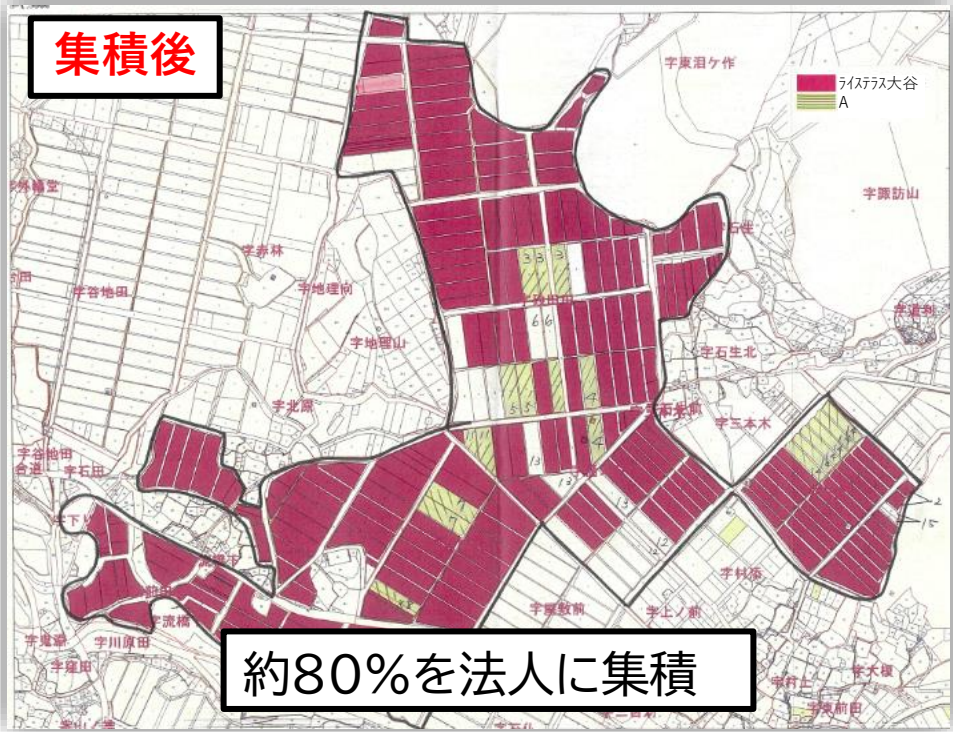
- 法人名 一般社団法人ライステラス大谷
- 設立日 令和5年1月18日
- 役員 代表理事1名 理事2名 監査1名
- 社員数 36名
- 集積面積 $\frac{\text{集積面積 } 42.5\text{ha}}{\text{対象面積 } 53.0\text{ha}} = \text{集積率 } 80.2\%$



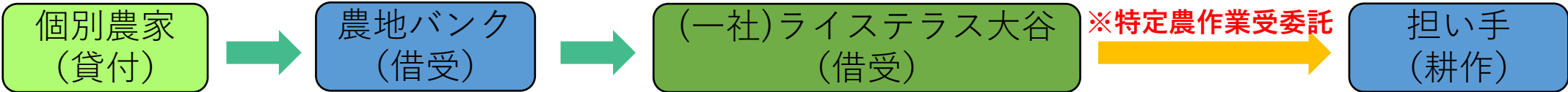
【法人名の由来】
ライステラス＝棚田
大谷＝上西連の地域

現在耕作している人、していない人も上西連の農地(田・畑)を「まるっと」農地中間管理機構に貸し出す。
上西連の一般社団法人が上西連の農地すべての受け手となり、すべての農地の利用権を法人に設定する。

「地域まるっと中間管理方式」による農地の集積



【農地貸借等の事務の流れ】



※農地の賃貸借契約ではなく、農作業の受託者(耕作者)が、農作業や生産した農産物の販売などを請け負う契約(販売権を持つことが可能)

受け皿が出来たことによるメリット等

上西連の農地を一般社団法人で維持し営農が持続的なものとなる！

- 営農を続けたい方も今まで通り営農ができる
- リタイヤ者でも安心して引退し、農地を法人に任せることができる
- 病気・ケガ等で急遽耕作ができなくなっても対応可能
- 農道・水路の維持管理を一般社団法人が担い、集落への負担を軽減できる

まとまった農地集積協力金が一般社団法人に交付！

今後の取組の資金に活用可能！



次のステップ

ライスセンター等の整備
担い手の確保
地域の魅力発信(地域づくり)

2つ目の普及指導活動のポイント **新技術**



普及員の専門力を発揮！
地域に必要な技術を担い手と実証し、
高い技術力で技術の定着を後押し！

モデル集落における担い手の経営の高度化支援

STEP 1

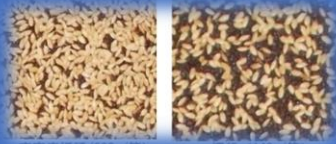
条件等を踏
まえ提案！

新技術の実証

①水稲直は播
種



②水稲高密度播種



コスト半減
省力化3～4割削減

③大豆小畦立て播種



④ドローン追肥

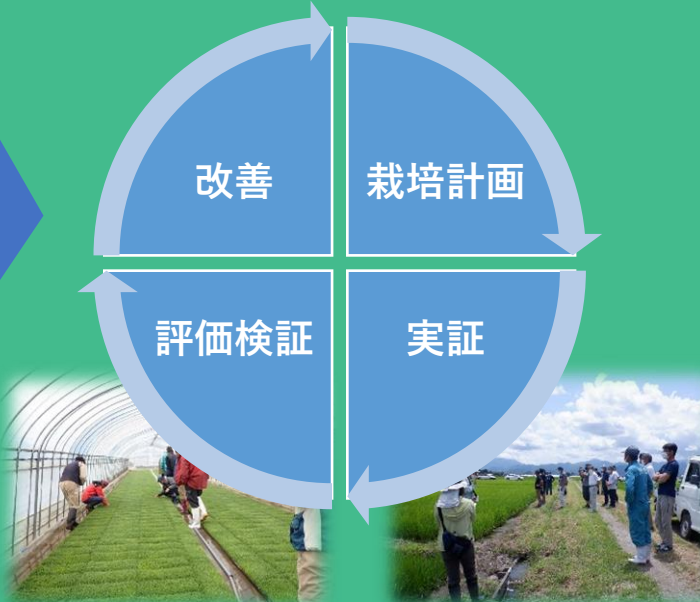


STEP 2

徹底した
調査、検証

技術定着に向けた改良・カイゼン

3つのモデル集落で実証した結果
③大豆小畦立て播種技術を断念



STEP 3

補助事業で
機械の整備

省力化・効率化で規模拡大！

3つの新技術が3集落に導入
省力化の実現により更なる規模拡大に期待！

- 会津若松市湊町経沢
 - ①水稲直播(26ha)
 - ②高密度播種苗(10ha)
- 会津若松市高野
 - ②高密度播種苗(36ha)
 - ④ドローン追肥(36ha)

※水稲直播の導入計画中

更なる規模拡大に期待

2つ目の普及指導活動のポイント **高収益作物**

モデル集落における担い手の経営の高度化支援

STEP 1

販売はJA
売れる物を

経営指標に基づく品目検討と 営農計画の作成

水稲の大規模経営を踏まえた
園芸品目をいくつかチョイス！

- アスパラガスは一度植えると長年
収穫が可能！
(春の所得確保にもなる)
- キュウリ・トマトは所得の王様
(一方、水稲と競合、手間もかかる)
- 花きは一斉収穫が可能！
(高単価も期待できる)



補助事業等を活用し施設整備

STEP 2

基本技術を
徹底指導

栽培実践（きめ細かな指導）



定期的な巡回指導で伴走支援



STEP 3

目指せ
収量アップ

新たな所得の柱として定着

- 会津若松市湊町経沢
①アスパラガス(10a)
※定植2年目
- 会津若松市高野
②花き
トルコギキョウ(10a)
ストック(6a)
※栽培2年目



新たな所得確保に！

普及員の**専門力**を発揮！

市場ニーズ等から判断した
新たな作物の導入と技術力の向上を
徹底的にアドバイス！



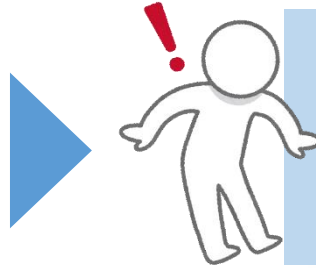
モデル集落における担い手育成と高度化支援

会津若松市 ^{こうや}高野地区

将来に向けて担い手確保が大きな課題

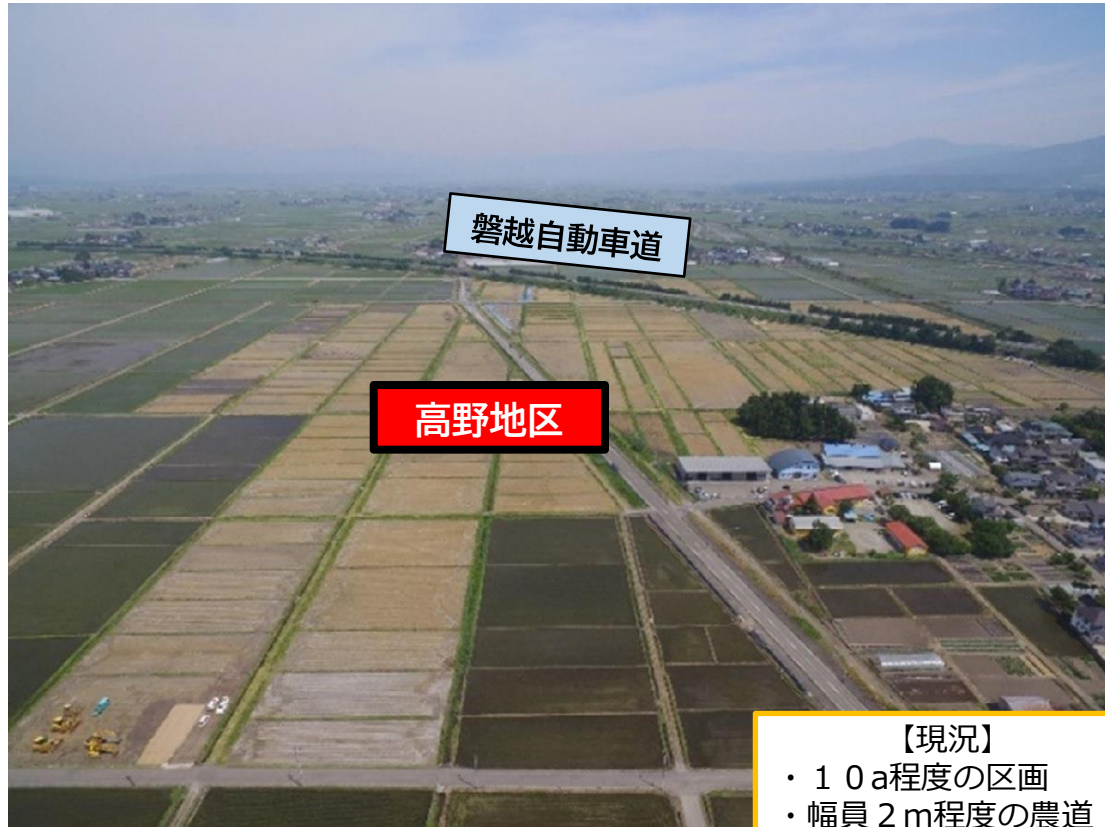
【地区の概要】

- 耕地面積 60ha
- 耕作者の多くは高齢化、小規模農家（6割が60歳以上）



【基盤整備事業の計画】

- 事業 農地中間管理機構関連農地整備事業
- 工期 令和2年度～令和7年度
- 面積 66.7ha（東京ドーム約14個分）



【現況】

- ・ 10a程度の区画
- ・ 幅員2m程度の農道



【計画】

- ・ 50a程度の区画
- ・ 幅員4mの農道



【基盤整備の要件】

- 営農経費の30%削減
- 高収益作物の導入



- 担い手確保とコスト削減等をどうするのか!?
- 高収益作物をどうするのか!?

モデル集落として
普及活動を開始!

(1) 新たな担い手確保に向けた取組・支援

基盤整備後の営農はどうする？

↓
何人かでまとまって法人
するしかないのでは!?

法人化するためにはどうすれば？

↓
プロを呼んで
勉強会をしよう！

度重なる勉強会で法人を理解！

↓
具体的に準備開始！

定款・営農計画等の書類作成

↓
雇用の確保を考慮し、
社会保険等も整備しよう！

令和4年1月 株式会社永和ファーム 設立

ノウハウ、
優良事例紹介

メリット・デメ
リットをとこ
とん追求

農業会議と連
携した取組

司法書士と連
携して支援



市、土地改良区、JA、農業振興公社、農業会議と連携して支援

構成員5名(代表取締役、取締役4名)、農業機械(自社整備、構成員からの借受)、仮換地された令和5年から営農開始

(2) 高収益作物の導入検討・栽培管理の伴走支援

高収益作物って何作ればいいの？



園芸作物なんて
作ったことがない...

農林事務所から「トマト」を提案



水稲作業と競合して
しまうのでは？

新たに「花き」を提案



水稲作業と競合しないが、
ハウスはどうするのか？

補助事業によりハウス整備



普及員とJAがいれば
素人でもチャレンジできる！

令和5年からトルコギキョウ、ストックの栽培を開始！

ハウス3棟整備、トルコギキョウ(10a)、ストック(6a)

栽培技術、
経営収支等を
詳しく説明

最も収益性が
高い作物を
推進

JAと相談し
新たな視点で
新品目を提案

市と連携し
施設整備は
補助事業活用

JAと連携して支援(トルコギキョウの定植指導)



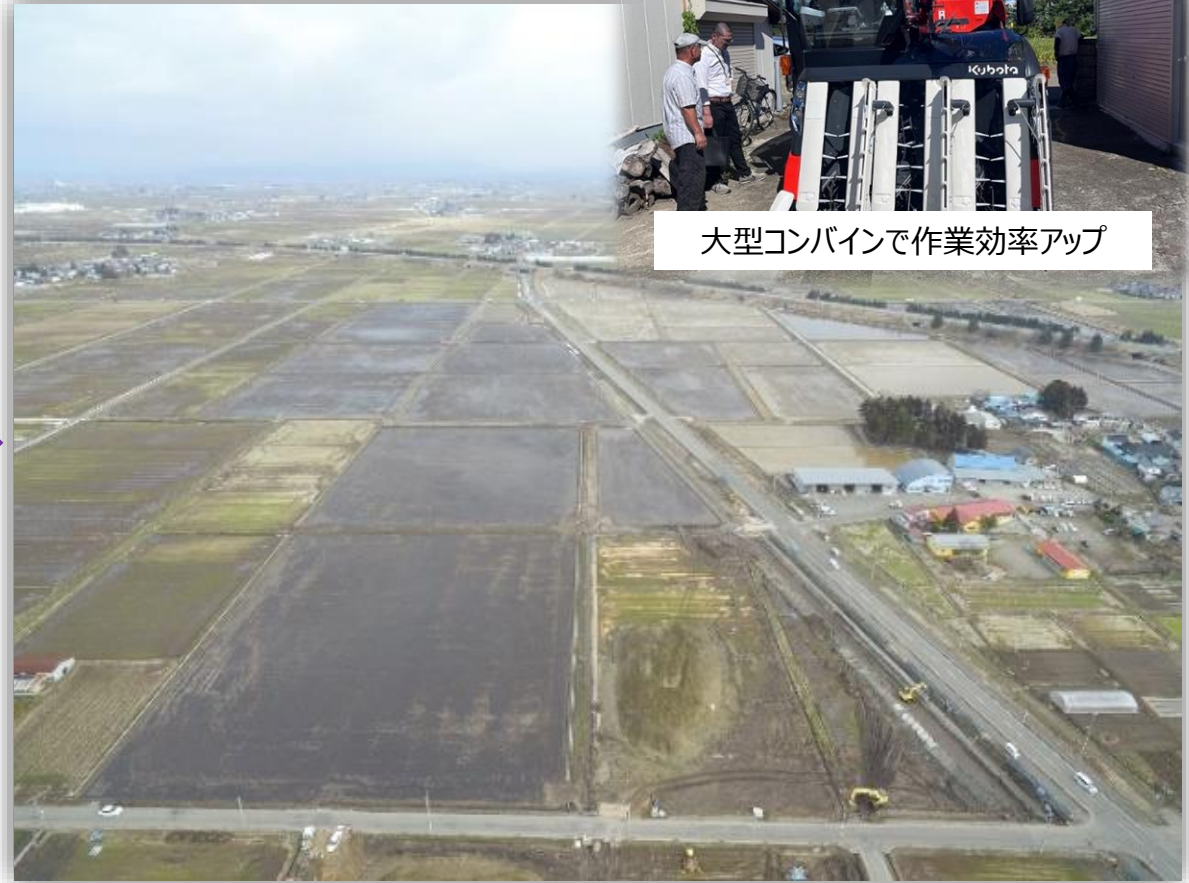
満開のトルコギキョウ



ほ場整備完了後の地区の農地



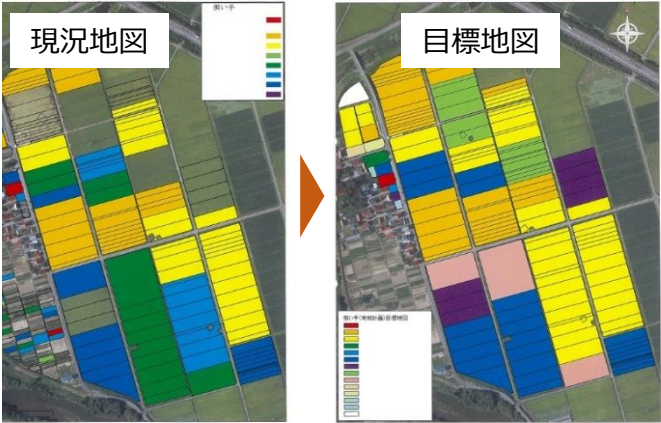
【現況】10a区画



【現況】50a区画

取組結果(成果測定事項)

成果測定事項	基準(R2)	目標(R6)	結果(R6)	結果の概要等
地域計画作成数	—	9 6	9 6	会津若松市（16計画）、磐梯町（11計画）、猪苗代町（69計画） もう一つの実績⇒磐梯町に一般社団法人設立
新技術導入数 （省力化）	0	5	3	①水稲カルパー粉衣直は、②水稲高密度播種、③大豆小畦立て播種、④ドローンによる追肥 【②2集落に定着】 【③定着せず】 もう一つの実績⇒会津若松市に農業法人設立
高収益作物導入数	0	3	3	アスパラガス、花き（トルコギキョウ、ストック）



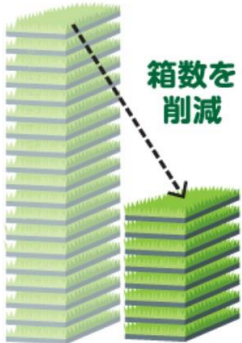
地域計画の目標地図（例）



慣行（140g/箱）



高密度播種(300g/箱)



水稲の高密度播種
(写真出展：JA全農、イラスト出展：クボタ)



高収益作物の花き
(トルコギキョウ)

今後の活動の方向性

- 策定された「96の地域計画」の具現化へ向けた支援
- 「地域まるっと中間管理方式」の横展開
- 地域を担う「大規模稲作経営体」の支援強化
- 集落営農組織の点検と状況に応じた広域合併等



社会や地域情勢、経営状況に応じて変化する取組を支援

おわりに(おまけ)

約20年前に徹底的な話し合いで合意形成した集落の今…

農事組合法人「下小島アグリコーポレーション」(西会津町)

当時、話し合いに参加していた担い手(父64歳)
現在は法人の役員

昨年入社した息子(30歳)
(息子世代2名が加入)
県農業総合センターで
基本技術を習得

あれから20年…

法人を立ち上げ起動に乗せるまでは大変だったが、法人という受け皿があったおかげで地域の農地が有効に活用され、当面は集落みんなの協力でやっていける！

そして今…

息子世代が法人に入ってくれた。
心から取り組んで良かったと思った。

20年前の座談会の様子

20年前の発表者

集落営農
手法を教えて
くれた先輩